

消費者と提携し地域農業を守る

下郷農協



2014

7

No. 629

January



明るい食卓

一食の安全を未来へつなぐ

(新春対談4～7ページ)

新年の挨拶

代表理事組合長 矢崎 和廣



謹んで初春のご挨拶を申し上げます。

新しい年を迎え、組合員・消費者・そして地域のみなさまにおかれましては穏やかに過ごされたことと心よりお慶び申し上げます。

旧年中は、引き続き厳しい農業情勢の中、農協事業にご理解、ご協力を頂き心より感謝申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

TPP参加断固反対の姿勢貫き

二〇一二年十二月の衆議院選挙、二〇一三年七月の参議院選挙で大躍進し、衆参のねじれも解消した自民党安倍政権は、数の論理で多くの暴挙に出ました。

特にTPP参加問題について

は、衆議院選挙では「参加反対」を掲げた多くの候補者が当選し、参議院選挙では「農産物の重要五品目は守る」と掲げた多くの候補者が当選しました。

そしてその公約さえも「見直し」に踏み切ろうとしています。衆参農水委員会は農産物の重要五品目の関税撤廃が除外できない場合は交渉から離脱することを明記した決議をしており、その決議に対しても現在の政府は無視しており、TPP交渉は撤退するべきだと考えます。今年も農業を守り、地域を守るためにも引き続き反対運動を展開します。

アベノミクスの反動が国民生活に…そして消費税増税

日本経済を復活させると宣言したアベノミクスの三本の矢は、一部のお金持ちや大企業にはその恩恵は大きく効果を発揮し、長く続いた円高が終了し、株価も大幅に上昇しました。ただ、その反動である円安に

より輸入物価上昇が続き、様々な食品や原油価格の高騰等、国民の生活を一層苦しめています。特に、飼料代の高騰は畜産農家を廃業の危機にまで追い込むような状況となっております。

そして四月から消費税が八%に引き上げられます。多くの国民が増税に反対、もしくは延期を願っている中、ただでさえ毎日の生活が苦しい事を政府は認識しているのかと憤りを感じます。

希望ある限り消費税増税に断固反対し、政党助成金の総額三一八億円や軍事費対前年比で一三〇億円の増の四兆八八四億円予算などを削り消費税増税に頼らない税制改革により、国民生活の底上げをするように訴えたいと思います。

国民イジメ、大企業本位・アメリカ主体の政策が顕著に

国会の大多数の議員数を占めるようになった安倍自公政権は、様々な暴挙を展開し、その本質が明らかになっています。

国会での質疑や意見もまったく無視して成立した「秘密保護法」をはじめ、普天間基地問題でも知事による「県外移設」の公約を踏みにじる辺野古移設承認は、金と

引き換えに基地を認めた形となり、アメリカの意向のためには如何なる手段でも取る姿勢が表れています。このお金も国の予算からの支出であり、私たちの税金です。もしかすると「消費税」からかもしれません。

やりたい放題の安倍政権は一刻も早く崩壊してもらいたいと願っています。

厳しい中でも農協の役割発揮

農業、特に畜産を取り巻く状況は今年も厳しいと思います。初期投資も大変な畜産は新規就農者も厳しいのが現状です。

昨年来、事業の基本方針として掲げ取り組みを強化してきます生産の拡大も思うように進まない中、農家と一層協議を進めながら引き続き生産拡大に全力をあげ、農協の経営も安定させなければなりません。あわせて協同組合運動も展開しながら、生産者が安心して農業に取り組める環境作りに頑張つて参ります。

「組合員が主人公」「消費者と提携し、地域農業を守る」の下郷農協の理念で今年も頑張る決意を述べ、組合員の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。年頭の挨拶と致します。

新潟・与板町在の母実家で祖父母との食の思い出



清水正嗣
教授 名誉教授 大分県農協 大分県農協 大分県農協 大分県農協

一、「新潟では、杉の木と男の子は育たない」といわれるのは何故か。

母の父（正嗣の祖父）は平沢金太郎で、新潟の山岳地域、小千谷市出身。与板の平沢に婿養子となり、塩文亭（魚系の郷土料理屋）を継いだ。その子供は計六名、女、正嗣の母及び叔母達は最初の三人、次いで男、正嗣の叔父達はその後、同じく三名。その初男孫が正嗣で、新潟の慣習で、一番目の男孫は大切にされ過ぎて、その食事時の席は、姉がいたけれど、正嗣の席のみ祖父の隣と決まっていた。

杉の木については初め、単純に雪の多いことに起因すると考えていた。でも、杉の木が枯れるわけではない、杉の木の生長が緩徐であることを意味していると考え、自己納得をしていた。では、男の子が育たないというのは何故であろうと考え、初めは、自身が体験した特別待遇と併せ考えた。しかしそれでは回答は得られない。自分の場合、母が六人姉妹兄弟全体の長女であり、そのお陰と思った発想であるが、納得し難かった。そこで更に考えたら、新潟が大米産地であり、これを主体にする生計は一応、当時なりの生活採算が合っていた。

とを意味されていた。年貢米の上納分に、多分、余裕は一所帯以上なかったであろう。単純の資産継続の封建制と理解するよりも、日本のコメ生産の家計実情は、歴史的に、戦後農地改革が実施されたといっても、大地主は健在で存続し、一部農村経済の変革はあっても部分的で、商工業など他に生計財源を求めねば、新しい所帯の設置、解り易く言えば、複数所帯をそれまでの米作面積で養うことは不可能であった。従って、男児が成人になれば、生計の道を新しく探し、確立しなければ、複数男子成人独立所帯の樹立は困難なことを意味した。米産が主要収入とする日本の地域では共通の困難を見出したものであろう。雪国米作農業地域が大部分を占める日本に対し、TPPの強要は、日本農業に壊滅的損害を引き起こすことは明らかである。さてそのような農業県において、複数男児を持った清水の実家でいかに対処したか、次に、実家家族の関係者発言として、失礼にならぬ範囲で実例を述べさせていた。

二、祖父母家族の事象
現在多くの農作所帯では、農業と他産業との複数稼働、または家族の他業種への転換平行勤務が第一に求められた。第二には、祖父金太郎が実施したように、他家、多職種への婿入りである。平沢家では、祖父の男児三人のうち、二人が養子縁組をし、皆がもともと優秀であったのが、さらに新住職の下、新しい職場家庭を持つて、一層幅広く、高く才能を生かしている。親しい従業員が一人が、平沢家では、なぜ婿入りが多いのかと質問提起をした。別の一人の答えは、「金太郎祖父が、自分の経験から、婿入りは良きものと判断したからさ」であった、半分は当たっているかも。

金太郎はもともと、新潟、山地の小千谷市で当時希少価値だった遡上した捕獲鮭の料理、なしいしは売買をしていたようであった。其れが日本海岸漁業町の寺泊に近い与板にきて、日本海の豊富な魚に接し、料理屋を任せられ、魚卸のセリ市を引き受け、又、新潟の現ホテリタリア軒を訪れ、新しい技術も習得したと母から聞いた。元々、彼は器用で、芸事に秀で、百人一首、踊り、などいろいろ楽しみを人に望まれるくらい通曉していたようである。新潟の魚料理については次回。



親子三代 下郷産直

食の安全を未来へつなぐ

下郷農協新聞の新春企画として、毎年「新春座談会」を開催し、掲載していますが、二〇一四年の幕開けのテーマを「産直」としました。

産直大地の会久留米の野田班・野田佐智子さんは同会創立時からの会員。別世帯の娘さんお二人も同会の会員です。娘さんお二人には子供が五人。まさに親子三代の下郷農協産直一家です。(福岡に住む長男にも子供が三人。野田佐智子さんにはお孫さんが八人います)

矢崎組合長が久留米市の野田佐智子さんのお宅を訪ね、産直を発展させていくためには、どのような運動を展開していくべきなのか、などについて語り合っていたいただきました。

コーディネーターは、産直大地の会久留米前会長の池田尚子さんをお願いしました。

(組合長) 新年あけましておめでとうございます。この新春座談会では産直消費者のみならずとお話しをさせていただくのは初めてです。

下郷農協は、「産直」を事業の柱に据えて運営していますが、これを次の世代へどう引き継いでいくのか、という課題を投げかけられています。



コーディネーター
池田 尚子さん
書道教師
会員歴 30年

生産者も消費者も後継者をどうつくっていくのか、という問題です。そのために、かつて盛んに行われた「産直交流」をもう一度取り戻そうという取り組みをしています。

この中で、ひと際目を引いたのが野田さんのご一家です。こうしてじっくりお話しを伺う機会をいただき、今後の取り組みのヒントをいただきました。二世代・三世代の方を交えたお話しは楽しみで、そのお話しの中に下郷農協の産直品があるということも大変ありがたいことです。今日はよろしくお願います。(池田) コーディネーターを務めさせていただきます池田尚子です。よろしくお願います。産直大地の会久留米の中で親子三代続いているというのはどこを探してもないと思います。子どもがいても近くに



野田 佐智子さん

ひとりぐらし

会員歴 34年

趣味 料理・旅行・麻雀・テニス

いないので買って、送ってあげているということが多くあります。そういう状況の中、本当に貴重な三代続いているご家族です。それでは、ご家族の自己紹介をお願いします。

(野田) 野田佐智子です。私は買い物に行くのが嫌いなので、配達してもらおうことが生活パターンになっていきます。買いに行くよりもその時間に合わせて家にいればいいだけです。ずいぶん前のことですが、産直交流会で初めて下郷の各農家に一泊し、生産者の顔が見え、美味しさの上に安心が加わり、ますますのめり込むようになりました。他人のお世話をするというよりも、まず自分が欲しいから一緒にやりませんか、というのがありました。池田さんとはテニスを通じて顔見知りだったので産直に誘いました。

池田 私には野田さんに紹介していただき、産直大地の会久留米に入会して三十年くらいになります。というのが、私は

夫が佐賀から転勤で久留米に住んで、それ以来です。

(野田) 池口富美子さん(産直

大地の会久留米初代会長)と鶴久千鶴子さんが始められた会に誘われたのがはじまりで産直大地の会の前身の久留米市民生協だったと思います。

長男がお腹に入っていたときに、口から入ったものが胎児に影響していることを実感し安心して食べられるものを手に入れることに時間を使いました。その中で下郷との出会いがありました。

そのころは久留米市民生協の中のひとつとして下郷があり、産直大地の会久留米という名前になったのはその後だと思います。下郷農協に子どもたちを連れて一泊で行き、野菜作りや乳牛などを見て、ますます離れられなくなりました。大分から当時は二時間かけて配達に来るのだから、自分が続けるためには会員を増やさなければと思います、誰かれなしに会ったら声をかけて、一番多いときは十八名の班になりました。集まる人は食べ物やキーワードにまとまるのですがみな食いしん坊です。いろんなことに興味をもっていますが、一番大事なことが「安全な食べ物」の本物の味を大切にすることです。

おかげでいい人間関係を築けていると思います。私の生涯の相棒に下郷があるといっ

てもいいほどです。それが子どもたちにもつながったのだと思います。

(伊藤) 長女の伊藤純子です。

スーパーでお肉を買うイメージが沸かなくて、東京にいたときはお肉屋さんの対面販売で買っていました。久留米に住むようになって当然のように、下郷農協の品物が食べたと思うようになっていきました。今では産直大地の会久留米の役員もしています。

(安達) 次女の安達優子です。

やっぱり母の姿を見ているからスーパーで買うということがないです。でも何かスーパーで買い物をするということにそこがこれのようないものはありません。実際に主婦になり主体的に買い物をするようになる、やっぱりシモゴウナイズ。(笑)家で美味しいお肉を食べたいし、ハムも大好きです。

北九州にいたときは自分で班を作って下郷農協に配達してもらいました。飯塚にいたときは「産直地球村」代表の滝本さんに本当に良くしていただきました。ですからずっと、途切れずに下郷の産直を続けています。

『交流の場を企画すれば、産地に触れ感じるものがきこえる』

(池田) 昨年の夏に下郷でキャンプをしましたね。このキャ

ンプを中心になって企画したのが純子さんで、お友だちを積極的に誘ったのが優子さんだと聞いています。会員以外の若い家族も参加していて、私も楽しかったのですが、参加された方々はどんな感想をお持ちなのでしょう。

(安達) あの雰囲気はみんなとても楽しみましたし、参加者の中から会員も増えました。ただ、下郷へ行くというよりもキャンプが目的になっていきました。何回か繰り返し行けば、下郷で作っているものへと目が向いていくのではないのでしょうか。今回はマンションに暮らしている人たちが日常から抜け出してキャンプに行けたということだけで大満足だったのではないのでしょうか。

(池田) 現地集合、現地解散だからキャンプが目的になってしまったことは仕方ないと思うけれど、引き込んでいくチャンスを作るのはいいことだと思います。

(安達) みんな何かしたいけど、どうしたらいいのかわからないので、企画してもらえば私たちも誘いやすいです。

(池田) 誘い込んだほうがいいですよ。そして実際に産地に触れれば、何か感じるものがあると思います。そういうところでも二人に私は期待しています。





伊藤 純子さん
野田さんの長女
4人家族
会員歴 8年

(野田) 石けんの会もそうですが、いいものだとわかっていけるけれど、石けんを廃油で作るという手間暇をかける人がなかなか育ちません。それを製造できるアドバイザーも毎年養成しているけれど、残つてくれる人が少ないです。産直組織の会員拡大も似たような状況があります。本当にいいものだとわかっていても中心になつてくれる人がいないですね。

(池田) 今、お話しがあった石けんの会は、NPO法人として立ち上げて、「NPO法人石けん愛好会」という正式名称です。固形石けんと液体石けんを作っています。ご利用いただいている方は多くて、下郷農協の女性部のみなさんにもご利用いただき、下郷農協のお店で販売していただいております。

(野田) 物を作り上げる楽しさを忘れてしまっているのではないのでしょうか。自分が関わって完成させるという喜びを

知ってほしいと思います。私たちの世代は、カップヌードルに代表されるような便利な食べ物が増え続けた世代でもあります。でもその一方で、かたくなに「そんなことではいけない」という人たちもいました。

『今がチャンス、こだわりを前面に下郷農協をアピール』

(安達) 下郷農協はもつと「エサからこだわっている」ということをアピールするべきだと思います。そうすればリピートは必ずあります。下郷は世の中と競争してもたぶん負けるから(笑)。「世の中と逆に行く良さ」を前面に出せば、コアな(深い・徹底した)ファンが増えると思います。

(伊藤) 商品から後ろのことは見えないようになっていきます。小さいときに「大きくなったら何になりたい」と聞かれる意味がわかりませんでした。働いている人のイメージがわかず、そういうふうに表示しか見なくていい社会になってしまっていることが問題なのではないのでしょうか。

(池田) そうですね。エサにこだわっているということが、下郷の一番のセールスポイントです。だから今がチャンスですね。

(組合長) それは下郷農協が変わらずにやってきたことです。下郷農協が維持できてい

るのはそのこだわりです。そのことを認識して買っていただく方々がいらつしやるのでここが変われば他と変わらなくなつて、下郷農協の魅力や存在意義が無くなつてしまいます。

畜産でいえば、NonrigMOやポストハーベストフリーなど「エサから安全性を追求している」ことをアピールし続けなければならぬと考えています。

『産直の大運動は繰返しの情報発信と横のつながりから』

(池田) 今、日本がTTP交渉に参加したけれど、これが自分たちはどう跳ね返ってくるのかということがわかっていない人がいっぱいいます。だからそういうところを繰り返し、繰り返し情報発信していきます、わかる人が増えていくと思います。そういう意味からもチャンスだと思えます。

下郷農協はずつと「こういうところにこだわっています」と言い続けてきているのですが、今ここでもう一度大きく打ち出すことが必要だと思います。

TTPに参加してしまつたら、日本の農業にとどまらず色々な面で私たちの生活に波及していく日本の姿に心細さを感じるのですが、みなさんはどのような年にしたいと思



安達優子さん
野田さんの次女
5人家族
会員歴 8年

われていますか。また、下郷農協にこういうふうにしてみてはどうかなどありませんか。

(野田) 食べ続けることが支えることではあるけれど、量が減ってきています。かといって会員数を増やすのも難しくなっています。ただ、我が家は公民館のように人が集まるので、その人たちにも勧めていきます。その中に若い人が入ってくるように頑張っていきます。

野菜の産直をしていた時も、残った野菜をどうするのかというところで、仕事を辞めてお店を開店された鶴久さんの心意気に感謝し、これは絶対につぶせないなと思ひ、毎週土曜日を「お惣菜の日」としてボランティアで一年近く続けました。そのときはお惣菜がよく売れました。それで野菜の残った物がはけていきませんでした。だから1、2年はそれだけにはまり込むという気力が必要だと思います。

(安達) その気力が大事ですが、

試行錯誤を繰り返しているところだ。

『今こそ生産者と消費者の顔の見える信頼関係を軸に、二〇一四年を産直運動飛躍の年に』

(伊藤) 横のつながりが大事だと思えます。信念を持った人たちがもつとつながっていく必要があり。情報でつながって、大きな運動になっていったらいいと思います。

社会全体が下郷のやっつけるようなことを意識できるような社会にしていきたいですね。それが下郷のためでもあり、きつとみんなが生きやすい世の中だと思います。

(組合長) 先ほどから言われているように、確かに異変は起こりつつあります。二〇一一年に原発事故が起こって、今になってもまったく収束しないばかりか、ますます放射能の危険性が広がり、安全な食べ物を探す人が増えてきています。

下郷農協の産直品でいえば、乾椎茸や小麦粉などの粉類をはじめ、昨年はこんにやくが例年に比べて良く売れています。安全な素材を手に入れ、自分で料理する人も少数派かもしれませんが、以前に比べるとかなり増えているのは確かです。

食の安全を求める人たちに、いろいろな形で下郷農協をアピールしていきたいと思

試行錯誤を繰り返しているところだ。

『今こそ生産者と消費者の顔の見える信頼関係を軸に、二〇一四年を産直運動飛躍の年に』

(安達) 「下郷まつり」を久留米でやったらいいと思います。数日間だけのお店。マーケットとかね。その日に合わせてみんなが準備してやればいいと思います。

(組合長) いいかもしれませんね。久留米には下郷農協の産直品を取り扱ってくださっているお店が多いので、そういう発想は浮かびませんでした。取引先のお店にもマーケットに出店していただくことは可能かもしれませんね。

都市に下郷の生産者が出向き、祭を通じた交流を繰り返せば、新たな産直の輪が広がる可能性が出てくると思います。

(伊藤) そのときは生産者の家族もいっしょに参加していたら、交流も深められ、次の世代にもつながっていくのではないのでしょうか。

(池田) みなさん、いろいろ貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。まとめに入りますが、TPPの問題や原産の問題など、日本の農業・食糧をはじめ私たちの生活がさらに脅かされようとしている中、消費者として産直

大地の会久留米も盛り上げたいし、生産者や、下郷農協ももっと応援したいし、双方が交流を深めながら「どちらも盛り上げましょう。」これで新春座談会を終わりたいと思います。

最後に矢崎組合長の二〇一四年の新年にあたっての抱負などについてお話ししたいと思います。

(組合長) TPPに加えて消費税の増税問題もあり、二〇一四年は私たちがどういう運動を展開していくのがあります。重要な年になると考えています。産直についても、生産者と消費者の顔の見える関係を続けていくことこそ、下郷農協が生き残っていくカギになります。

本日いただきましたご意見も参考にして、しっかりと産直運動に活かしていきます。今後ともよろしく願います。今日は本当にありがとうございます。



代表理事 組合長
矢崎 和廣

編集後記

野田佐智子さんの「自分が安全な食を求めると、誰か安全な食を会う人を会に誘った」という言葉に衝撃を受けました。また、娘さんの伊藤純子さんや安達優子さんは「(若い人も)みんな考えてはいるけれど、どうしたらいいのかわからない」と話していました。

かつての消費者のエネルギーは、今の若い消費者のなかにも確実に潜んでいて、どのような種を播けば芽を出すかが問われているように感じました。

消費者・消費者組織のみなさんとともに、下郷農協の事業の柱である「産直」を維持し、発展させていくために、大きく動き出す二〇一四年にしなければならぬという決意を新たにすることができた新春座談会でした。



稲作体験通じて『食育』

学童の子どもたちと稲作生産者が餅つき交流

十二月十四日、門司こぼと保育園に隣接する「学童クラブすだち」（中谷淳代表・会員一〇〇名）で、学童クラブに通う子どもや保護者約七十名と下郷農協の健康米生産者ら六名が、稲作体験の第四弾として餅つきを通じて交流しました。

今回の餅つき交流は、六月に下郷で田植え、八月に草取り、十月に稲刈り体験に続く第四弾として企画、稲作体験を通じて農業の大切さを学んだ子どもたちに、楽しく餅つきを体験してもらい、美味しいお餅を食べてもらおうと、健康米生産者の協力を得て開催されました。

当日は冷たい風が吹くあいのくの天候でしたが、生産者のアドバイスを受けながら、保護



生産者の手ほどきでもちをつく参加者

者らの掛け声に合わせて子ども達が交代で一懸命に杵を搗き、搗き上がったお餅を「あったかい」と言いながら丸めていきました。

出来上がったお餅は、生産者と一緒にきな粉や醤油をつけてみんなで食べながら、楽しいひと時を過ごしていました。

また、餅つき交流に参加した保護者らに下郷農協の農畜産物を少しでも知ってもらおうと、焼肉の試食や健康米で作った甘酒の試飲を提供しながら商品の即売も行い、大変好評を頂きました。

餅つき交流に参加した健康米生産者は、「大変楽しい交流が出来た、来年はぜひ一泊で産地に来てもらい、子どもたちに色々な農業の体験をしてもらいたい」と、笑顔で話していました。(f)



*子どもたちから、たくさんの感想文が寄せられましたので、その一部を紹介します。

諸藤舞美

私は、今5年生なのですが、餅をついたのは、ようちえん以来でとても楽しかったです。餅をつくかんかくや丸くするかんじをおもいだして、とてもなつかしくかんじました。おみやげで家にもちかえると、家族から大好評でした。ふわふわ、もちもちしていて、のりでもきなこでもしょうゆでもなんでも合いました。また来年もこんな楽しいきかくをして下さると嬉しいです。

ありたなつな



竹森新紗

もちつきは丸めるのもつくのも楽しかったです。またしたいです。でもらいねんにできるとはかぎらないのでこん回をいっぱいしたのしめました。すだちでつくったぶたじるとのあいしょうばつぐんでした。ありがとうございます。

村瀬瑠菜

…外はさむくておもちをまるめる時、おもちがあったかいので「あったかい」と4、5、6年生はいていました。そしておちはおいそうだったので、はやく食べたい!と思いました。そしてわたしたちのでばんが来て「きね」をもったとき、よそうがいに「おもち」といってしまいました。でもつきはじめるのだんだん慣れてきたけど、10回でおわつたので、まだまだかかったなと思いました。・・・おもちをたべて、おいしくてしあわせな気分になりました。なので弟にも来てほしかったです。でもいばんがなつたのはしもごうのうきょうのみなさんだと思つたのでしもごうのうきょうのみなさんは大変だったなと思つた。もちつきはすごく楽しかったです。

とよくらももな

この前おもちつきをしたのしかつたです。おもちをつくのはおもかったです。おもいのに早くできていてすごかったです。こなを手につけておもちをまるめるのも楽しかったです。声を1.2.3と出すとやりやすいのがわかりました。おちはきなこもちもしょうゆもちもどっちもおいしかったです。たのしかつたのでまたやりたいです。

大好評 『キヌヒカリ』

健康米新品種候補の試食アンケート結果

健康米生産組合（山崎和美組合長・会員二十四名）では、減少する会員数に歯止めをかけ新規の生産者が増えるようにとの思いから、現行の健康米栽培指定三品種（ヒノヒカリ・ひとめぼれ・牧田コシヒカリ）に加え新品種の選定を検討しています。

このほど下郷農協まつり会場で行った『キヌヒカリ』の試食アンケートを集約、「冷めても甘みがあり美味しい」「もちもちの食感」など、約

九割の人が「美味しい」との結果を取りまとめました。今後、役員会や健康米組合総会で会員の意向などを取りまとめ、来年度の導入を目指し農協との協議を進める予定です。

山崎和美組合長は、「現行品種は、良食味米ながら天候や栽培方法により倒伏や病害虫の被害など作りにくい面もある。また、新規会員は条件にもよるが組合の規約で「ひとめぼれ」品種に限っての栽培となるが、栽培指定品種を増やす事で新たな会員の加入が促進され、既存生産者も品種の組み合わせで適期作業にあたり増産が期待できる」と話していました。

また同組合長は、「アンケートでの意見で、これから安全で美味しいお米を頑張って作って下さい」と私たちも買い支えます」など励ましの言葉をたくさん頂いた。今まで以上に消費者に喜んでもらえるよう生産に努めたい」と語っていました。（f）

交通安全祈願の 小物入れや杖

山田正さんから農協に寄贈

町内金吉地区の山田正さん（94歳）より、交通安全を祈願した手作りの小物入れや杖を頂きました。

木箱の小物入れには、山田さんの名前とともに知人が書いたという交通安全祈願の言葉も添えられています。

木箱の小物入れは、農協本所の窓口などでメガネやペンなどを入れるのにたいへん便利で、杖は下郷診療所の玄関に置かれ、足の不自由な患者さん等、気軽に使って頂いています。

山田さんは、「木箱の小物入れは中津警察署に百個、地域の人にも配ったりした。交通事故なく皆が安心して暮らしてほしい」と、元気に話していました。



「ちいさいおうち 保育園」も

稲作生産者と
もちつき交流

十二月二十一日、北九州の八幡西地区で、NPO法人ちいさいおうち共同保育園と稲作生産者で組織する下郷合鴨愛好会（山崎和美代表）との餅つき交流を行いました。

この交流は、十数年続く稲作体験交流の取り組みの一つで、北九州に生産者が出向いての交流は二回目となります。

当日は園児や保護者のほか、卒園生など約七十名が参加して餅つきを楽しみました。



下郷農協新聞二〇〇九年十月号から連載の「いさむじいちゃん（よばなし）の夜嘸」として、原稿をお寄せ頂いておりました岩下勇さんが、一月九日亡くなられました。

（享年九十四歳）

昨年までに頂いておりました原稿について、今月号の掲載をもって最終回とさせて頂きます。これまでのご寄稿に感謝の意を表すとともに、謹んでご冥福をお祈り致します。

（今回掲載の写真は連載開始当時、「わしの閻魔帳じゃ」と新聞の切り抜きノートを開く、在りし日の岩下勇さん）

十二支

十 二支のトップにネコがないのは何故？

お釈迦様が亡くなって、神様が動物たちを招集した。

トラやウサギと違って足ののろい牛は早めに出発。

ネズミはちゃっかりその背に乗り一番で着くところをちよろちよろと一足早くトップでゴールしたからとか。

十二支にネコがないのはネ



ズミに集合日を一日遅れに言われ騙されたため神様から顔を洗ってくるように叱られ、その後ネコは顔を洗うようになりネズミを目の敵にするようになったとか。

民衆の知恵が生んだお話（民間伝承）。

ネズミのすばしこさ、ずるさをいっているのだからが民間伝承ではネズミは予知能力が優れていると見る。

例えば大分でもいうがネズミがいなくなると火事になると言う俗信は全国的なもの。

火事に限らず変事や災難、洪水などの前にはネズミは大移動すると言う。

新連載

『下郷下郷』

2月号より始まります

この新連載は、下郷農協に「産直交流」や「視察」などで来られた方から質問され、ハッキリと答えられなかったことを、後で調べたのがきっかけです。

この場を借りて、下郷・耶馬溪の地名の由来についてご質問くださった方へのお答えとさせて頂きたいと思います。

これをきっかけに、下郷やこの地方の郷土史などに興味がわき調べているのですが、それだけでは飽き足らず、この下郷農協新聞の読者の皆様にも広くご紹介したいという思いが強くなり、なんと連載にまで発展してしまつたのです。

すでに、ご存知で、「いまさら…」という内容も多々あるうかとは思いますが、そのような方々には復習の意味も込めて、ぜひお付き合いいただければと思います。

下郷と山国町をまたぐ山城跡・「二ツ戸城」（以下「二戸城」と言う）を「下郷入口」として、ここから連載に入ります。（ひとつどじょう・地元では「ひとつとじょう」、その真下にある下郷の集落を「ひとつ」と呼ぶ）

連載の前半は、下郷やこの地方の地名の由来や歴史などについて書きます。ご意見ご感想などお寄せいただければ嬉しい限りです。

それでは次号、「いまなぜ二戸城か」から始まりますので、どうぞよろしく願います。

注・本来の下郷入口はここです

国道212号線を中津から日田に向けて走ると、耶馬溪中学校を過ぎたあたりから「大島」に入り、右手に下郷小学校がある十字路。ここが「下郷入口」です。さらに進んで右へ曲がると下郷農協もある「島」や雲与橋（うんよばし）を渡って「橋本」、右へ「樋山路」方面。下郷入口の十字路を左へ曲がると「大久保」・「金吉（裏耶馬溪）」方面。真つすぐ進めば「宮園」を経て、お隣の山国町・日田方面へと続きます。なお、下郷は大島・樋山路・金吉・宮園の四つの大字地区で構成されています。

P・N 霧山 深兵衛

理事会だより

十二月二十五日、第九回定例理事会を開催しましたので、議案および協議内容の一部概要をお知らせします。

報告事項：中津市議会への「TPP交渉からの撤退を要求する請願」結果について

JA全国監査機構期中監査結果概要について

第一号議案：十一月決算承認の件について

第二号議案：上期決算に係る監事監査指摘事項の回答について

第三号議案：反社会勢力等への対応に係る関係諸規程の一部改正について

その他

報告事項の中津市議会への「TPP交渉からの撤退を要求する請願」結果については、十一月十八日にJAおおいた中津事業部と連名で提出したJAグループ統一の意見書は、十二月五日に開かれた議会運営委員会（構成員九名）で全会派の賛成が得られたため、議会では請願者団体名ではなく「議会運営委員長」として十二月十九日に委員長が議会へ報告・提案理由等を行い、全会一致で採択された事が報告されました。
また、JA全国監査機構期中監査結果概要については、十二月二日～六日の五日間行われた監査機

構の期中監査で、今年三月末の本決算を見据え九月末現在の財務状況や内部統制等を検証、監査講評は今年一月に行われる事が報告されました。

第一号議案の十一月決算承認の件については、事業利益四、七〇九千円の計画に対し△五、八五五千円で一〇、五六四千円の未達成となりました。事業利益は計画対比で、収益部門のうち農産七四七千円・共済五〇九千円・信用四六二千円等が達成、購買三、一七四千円・食肉二、八六八千円・診療所二、〇二〇千円・販売商品一、八三四千円・販売一、六八八千円、一〇、四二二千円事業利益計上の牛乳一、三〇七千円等が未達成となりました。

第二号議案の上期決算に係る監事監査指摘事項の回答については、十月二十九日～三十一日の三日間行われた監事監査の指摘事項についての回答（案）を審議、一部修正を条件に承認を受けました。

第三号議案の反社会勢力等への対応に係る関係諸規程の一部改正については、信用事業システムで使用する関連システムの登録リスト拡大および、金融検査マニュアルや総合的な監督指針に係る関係規定の整備、並びに体制の一部見直し等により諸規程の一部改正を付議、承認を受けました。

その他の事項では、十月に開催された集落常会での「組合員意見・要望に対する回答」を示し、内容の確認を行いました。

「ふれあいの店」より

毎月 第4土曜日はポイント2倍!!

2,000円以上お買上げの方は2,000円につきポイント2個です。

お願い

ガソリン代、新聞代、ガス代等を通帳より自動引き落としされている方は、残高不足で引き落とし不能にならないようご注意ください。

お便り募集!!

中津市耶馬溪町

大字大島二一五一四

下郷農協 農協新聞係宛

またはメールで、

masutani@simogonokyou.or.jp

しゅんさいかん

『旬菜館』が無料配達 してくれます。

食料品や日用品などを
電話一本で、



※ご注文は2月1日(土)から受け付開始。配達は2月3日(月)からになります。

下郷農協「ふれあいの店」の食料品・日用品なども電話一本で、高齢者を主としたお宅へ旬菜館が無料で配達してくれるようになりました。

買い物が困難な組合員のみなさん、農協の商品といっしょに、お弁当なども届けてもらえて助かります。思い切って旬菜館に配達を頼みましょう。

旬菜館 電話 54-3555 へ

旬菜館に置いている下郷農協の商品は「旬菜館の価格」。旬菜館にはなく、下郷農協「ふれあいの店」に置いている商品は「ふれあいの店の価格」でお届けします。(※お支払いは現金でお願いします) 他に酒類や郵便ハガキなども一緒に配達してもらうことができます。

下郷農協も旬菜館の一組合員(団体)であり、旬菜館は、中津市の委託を受け、買い物支援事業(宅配)に取り組んでいますから、「遠慮なくご利用ください」とのことです。

*配達希望日の前日(午後6時)までに旬菜館・電話54-3555へ直接注文してください。

*注文はいつでも受け付けますが、配達がお休みの日は、日曜日・第一、第三土曜日です。

(悪天候等により配達できない場合もあります。また、臨時に配達を休む場合もありますので、あらかじめご了承ください)

*配達担当者は、「中島勝成さん」です。

農産物の自給と無料配達(お取り寄せ)を上手に組み合わせ、豊かな食生活を送りましょう。

●発行/下郷農協同組合 〒871-0431 大分県中津市耶馬溪町大字大島215-4
TEL 0979-56-2222 FAX 0979-56-3117 http://shop.simogonokyou.or.jp/ パックナンバー掲載中

数独ペンパズル

数独(すうどく)

190

《数独のルール》
①タテ9列、ヨコ9列のそれぞれに1から9までの数字が1つずつ入ります。
②太線で囲まれた3×3のブロック内(マスは9つ)にも1から9までの数字が1つずつ入ります。
③従って、タテ、ヨコ、ブロック内で、同じ数字が重複して入ることはありません。

解答は次号で

		6		2				
	7						8	
		3		9		2		
	8						9	
6		7		1	9			
		4		2			6	3
						1		
	6			3		7		
5	^A		7					2

《先月の解答》

8	9	2	3	5	6	1	4	7
6	3	4	1	7	2	5	9	8
5	1	7	4	9	8	2	6	3
2	8	6	7	3	4	9	1	5
3	5	9	6	8	1	4	7	2
7	4	1	9	2	5	8	3	6
1	2	3	8	4	7	6	5	9
9	6	5	2	1	3	7	8	4
4	7	8	5	6	9	3	2	1